

リニア長野県駅とのアクセス・イメージ図

【麻績神社・麻績の館】

・天正年間（1573年頃）より前の開創といわれ、1873年（明治6）以降、麻績神社と呼ばれる。明治後期から始まったとされる三兄弟の獅子曳きが特徴。
 また1873年（明治6年）に建築されたとされる麻績学校校舎は、巨大な木造建築物であり、歌舞伎舞台を備えた珍しい複合建築である。
 春先の舞台桜開花時の風景は絶景であり、農村歌舞伎の再開も含め、都心部居住者の来訪スポットに成りうる神社である。

【本棟造・養蚕民家に残る農村原風景の継承】

・飯田市座光寺地区（旧座光寺村）は、他地域で次々と農地の転用・開発が進む中、農業振興地を維持してきた。その結果、江戸中期から明治期に建築された民家が、多数住み継がれている。江戸中期からの稲作主体時の本棟造が12棟、明治期以降の養蚕盛業時の養蚕民家が47棟残存しているが、これは農業の発展史を伝える貴重な産業遺産である。
 このような民家が点在する農村原風景は南信州独自の資産であり、地域文化研究者のみならず都心部居住者の癒しの空間として、来訪するスポットになりうる素養のある地域である。



【農村原風景の残る座光寺地区】

平成19年度に景観条例は施工済みであるが、屋根形状・使用材料・色彩等の景観に関する基準を強化する必要がある。